

第2章 基本的な考え方

1 まちづくりのキーワード及び将来像

江別市の野幌地区にある中心市街地は、買い物などの日常生活の場であると同時に、地域の歴史や伝統、コミュニティなどの中心的な役割を担うなど、住民生活に重要な役割を果たしてきており、本格的な少子・高齢社会に直面する中、その役割はこれまで以上に重要になってきています。

また、中心市街地のうち JR 野幌駅周辺地区では、連続立体交差事業による駅南北の一体化、土地区画整理事業による南北市街地の一体化や拠点街区の形成、街路事業による 8 丁目通等の拡幅整備などにより、江別市の中心市街地にふさわしいまちが形成され、これからは駅を越えて南北に人や車が行き交い、多様な主体が連携したまちづくりのための取り組みが期待されています。

こうしたことから、地域住民の生活に密着したまちづくりのための取り組みを総合的に進めていくためには、多様な主体が地域で果たすべき社会的役割を踏まえ、中心市街地において社会的課題を解決していく必要があることから、「多様な連携」、「環境」、「安全安心」の3つをキーワードとして、具体的な将来像を設定しました。

(1) 多様な連携「多様な連携が育むまち」

江別市内の大学や企業等を含め、地域の多様な主体が幅広く連携し、地域が一丸となってつがい、育てるまちにしていきます。

(2) 環境「環境に配慮した持続可能なまち」

緑豊かで、省エネルギーや新エネルギー設備の導入等により低炭素社会に対応するなど、環境に配慮した持続可能なまちにしていきます。

(3) 安全安心「安全で安心なまち」

誰もが歩いて楽しく、子どもやお年寄りにも安全で安心なまちにしていきます。

2 まちづくりのテーマ

上記の「まちづくりのキーワード及び将来像」を踏まえ、来訪者や地域の人たち、更には地球環境にやさしく、誰もが歩いて楽しく安全で安心なまちにするため、以下のとおり、まちづくりのテーマを設定しました。

人と環境にやさしい、安全で安心なまち「のっぽろ」
ぶらぶら歩きが楽しい、発見のあるまち